

[研究ノート]

2項係数を含む有限和に関する命題 (2)

田 中 武 之

金属材料の疲労き裂発生を表す確率過程モデルとして、損傷累積モデル¹⁾が提案されている。このモデルによって、疲労き裂発生までの平均寿命を表す式が導かれる。当初、その式に現れる函数 $F_l(x)$ が複雑な形をしていたため、近似的評価を余儀なくされていたが、その後の著者らの研究²⁾で、この函数の簡単な表現が見つかり、精密な評価が可能になった。しかし、当時は特定の数値範囲で確認したにとどまり、数学的根拠は明かされていなかった。このことの証明は、前報の研究ノート³⁾に示したように、次のような形の2項係数を含む有限和に関する等式に帰着する。この研究ノートで、これらの証明を示す。合わせて、函数 $F_l(x)$ の性質をいくつか記す。

【命題1】

$1 \leq n \leq l-1$ のとき、

$$\sum_{k=0}^n \frac{\binom{l}{k} \binom{n}{k}}{\binom{l+n-1}{2k}} = \frac{l+n}{l-n}$$

が成立する。

【命題2】

$n \geq 2$ のとき、

$$\sum_{k=1}^{n-1} \frac{\binom{n}{k} \binom{n}{k}}{\binom{2n-1}{2k}} = \sum_{k=1}^{n-1} \frac{2n}{n+k}$$

が成立する。

受付日 2007.4.16

受理日 2007.6.13

所 属 福井県立大学学術教養センター

【命題 1 の証明】

通常、2項係数は $0 \leq k \leq n$ の整数の範囲で

$$\binom{n}{k} = \frac{n(n-1)\cdots(n-k+1)}{k!}$$

によって定義されるが、ここでは、 $n < k$ の場合や n が負の場合も許し、形式的に右辺の意味で解釈することにする。ただし、 k は 0 または正の整数とする。この定義の下では、 $n=0, 1, 2, \dots$,

$$k-1 \text{ のとき、 } \binom{n}{k} = 0 \quad \text{である。}$$

$n=1$ のとき命題 1 が成立することは容易に確かめられるから、以下では、 $n \geq 2$ の場合を考える。命題 1 の左辺の l を不定元 x でおきかえて、 x に関する有理式として扱う。

$$Q(x) = \sum_{k=0}^n \frac{\binom{x}{k} \binom{n}{k}}{\binom{x+n-1}{2k}} = \sum_{k=0}^n \frac{x(x-1)\cdots(x-k+1)}{(x+n-1)\cdots(x+n-2k)} \frac{(2k)!}{k!} \binom{n}{k}.$$

この有理式の極を調べる。 $Q(x)$ の分母には、見かけ上、最大で $2n$ 次の多項式が現れているが、約分をすると、

$$\begin{aligned} Q(x) &= 1 + \frac{x}{(x+n-1)(x+n-2)} \frac{2!}{1!} \binom{n}{1} + \frac{x(x-1)}{(x+n-1)\cdots(x+n-4)} \frac{4!}{2!} \binom{n}{2} \\ &\quad \cdots + \frac{x(x-1)\cdots(x-n+4)}{(x+n-1)\cdots(x-n+6)} \frac{(2n-6)!}{(n-3)!} \binom{n}{n-3} + \frac{x(x-1)\cdots(x-n+3)}{(x+n-1)\cdots(x-n+4)} \frac{(2n-4)!}{(n-2)!} \binom{n}{n-2} \\ &\quad + \frac{x(x-1)\cdots(x-n+2)}{(x+n-1)\cdots(x-n+2)} \frac{(2n-2)!}{(n-1)!} \binom{n}{n-1} + \frac{x(x-1)\cdots(x-n+1)}{(x+n-1)\cdots(x-n)} \frac{(2n)!}{n!} \\ &= 1 + \frac{(x+n-3)\cdots(x+1)x}{(x+n-1)\cdots(x+1)} \frac{2!}{1!} \binom{n}{1} + \frac{(x+n-5)\cdots(x-1)}{(x+n-1)\cdots(x+1)} \frac{4!}{2!} \binom{n}{2} \\ &\quad \cdots + \frac{(x-n+5)(x-n+4)}{(x+n-1)\cdots(x+1)} \frac{(2n-6)!}{(n-3)!} \binom{n}{n-3} + \frac{x-n+3}{(x+n-1)\cdots(x+1)} \frac{(2n-4)!}{(n-2)!} \binom{n}{n-2} \\ &\quad + \frac{1}{(x+n-1)\cdots(x+1)} \frac{(2n-2)!}{(n-1)!} \binom{n}{n-1} + \frac{1}{(x+n-1)\cdots(x+1)} \frac{1}{x-n} \frac{(2n)!}{n!} \end{aligned}$$

となって、結局、

$$Q(x) = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{(x+n-2k-1)\cdots(x-k+1)}{(x+n-1)\cdots(x+1)} \frac{(2k)!}{k!} \binom{n}{k} + \frac{1}{(x+n-1)\cdots(x+1)} \frac{1}{x-n} \frac{(2n)!}{n!}$$

2項係数を含む有限和に関する命題 (2)

の形になり、 $Q(x)$ の分母の次数は高々 n 次であることがわかる。したがって、 $Q(x)$ は次の形の部分分数に分解できる。

$$Q(x) = 1 + \sum_{m=1}^{n-1} \frac{a_m}{x+m} + \frac{b}{x-n},$$

$$a_m = (x+m)Q(x)|_{x=-m}, \quad (m=1, 2, 3, \dots, n-1),$$

$$b = (x-n)Q(x)|_{x=n} = \frac{1}{(2n-1)\cdots(n+1)} \cdot \frac{(2n)!}{n!} = 2n,$$

このとき、 $a_m=0$ であることを示そう。

$(x+m)Q(x)$ の項は、 $m \geq n-2k$ の場合に限り、分母に因子 $x+m$ をもつことに注意する。

$$\begin{aligned} (x+m)Q(x) &= \sum_{k < (n-m)/2} \frac{(x+m) \times x(x-1) \cdots (x-k+1)}{(x+n-1) \cdots (x+n-2k)} \cdot \frac{(2k)!}{k!} \binom{n}{k} \\ &\quad + \sum_{k \geq (n-m)/2} \frac{x(x-1) \cdots (x-k+1)}{(x+n-1) \cdots (x+m+1) \times (x+m-1) \cdots (x+n-2k)} \cdot \frac{(2k)!}{k!} \binom{n}{k} \end{aligned}$$

この式に $x=-m$ を代入すると、 $k < (n-m)/2$ の項はすべて0になって、

$$\begin{aligned} (x+m)Q(x)|_{x=-m} &= \sum_{k \geq (n-m)/2} \frac{(-m)(-m-1) \cdots (-m-k+1)}{(-m+n-1) \cdots 2 \cdot 1 \times (-1)(-2) \cdots (-m+n-2k)} \cdot \frac{(2k)!}{k!} \binom{n}{k} \\ &= \sum_{k \geq (n-m)/2} \frac{(-1)^k (m+k-1) \cdots (m+1)m}{(-1)^{m-n+2k} (n-m-1)!(m-n+2k)!} \cdot \frac{(2k)!}{k!} \binom{n}{k} \\ &= \sum_{k \geq (n-m)/2} (-1)^{n-m-k} (n-m) \frac{(m+k-1)!}{(m-1)!k!} \cdot \frac{(2k)!}{(n-m)!(m-n+2k)!} \binom{n}{k} \\ &= \sum_{k \geq (n-m)/2} (-1)^{n-m-k} (n-m) \binom{k+m-1}{m-1} \binom{2k}{n-m} \binom{n}{k} \end{aligned}$$

のように変形できる。 $k < (n-m)/2$ のとき、 $\binom{2k}{n-m} = 0$ と定義したから、和の範囲を $0 \leq k \leq n$ に拡張してよい。こうして、 a_m は

$$a_m = (-1)^{n-m} (n-m) \sum_{k=0}^n (-1)^k \binom{k+m-1}{m-1} \binom{2k}{n-m} \binom{n}{k}$$

の形に表される。

さて、一般に、 $n \geq 1$ のとき、高々 $n-1$ 次の任意の多項式 $P(x)$ について、

$$\sum_{k=0}^n (-1)^k P(k) \binom{n}{k} = 0$$

が成り立つ。なぜなら、 $(x+1)^n$ を繰り返し微分して、

$$(x+1)^n = \sum_{k=0}^n x^k \binom{n}{k}, \quad n(x+1)^{n-1} = \sum_{k=0}^n kx^{k-1} \binom{n}{k}, \quad n(n-1)(x+1)^{n-2} = \sum_{k=0}^n k(k-1)x^{k-2} \binom{n}{k}, \dots,$$

$$n(n-1)\cdots 3 \cdot 2(x+1) = \sum_{k=0}^n k(k-1)\cdots(k-n+2)x^{k-n+1} \binom{n}{k},$$

$x=-1$ を代入すると、

$$\sum_{k=0}^n (-1)^k \binom{n}{k} = 0, \quad \sum_{k=0}^n k(-1)^k \binom{n}{k} = 0, \quad \sum_{k=0}^n k(k-1)(-1)^k \binom{n}{k} = 0, \dots,$$

$$\sum_{k=0}^n k(k-1)\cdots(k-n+2)(-1)^k \binom{n}{k} = 0,$$

一方、高々 $n-1$ 次の任意の多項式 $P(x)$ は、基底

$$P_0(x) = 1, \quad P_1(x) = x, \quad P_2(x) = x(x-1), \quad P_3(x) = x(x-1)(x-2), \dots,$$

$$P_{n-1}(x) = x(x-1)\cdots(x-n+2)$$

に関して、適当な係数 $\alpha_0, \alpha_1, \dots, \alpha_{n-1}$ を定めて、線形結合

$$P(x) = \alpha_0 P_0(x) + \alpha_1 P_1(x) + \alpha_2 P_2(x) + \cdots + \alpha_{n-1} P_{n-1}(x)$$

の形に表すことができる。よって、

$$\sum_{k=0}^n (-1)^k P(k) \binom{n}{k} = \sum_{j=0}^{n-1} \alpha_j \sum_{k=0}^n (-1)^k P_j(k) \binom{n}{k} = 0$$

が成り立つ。

いま、 $P(x)$ として、

$$P(x) = \binom{x+m-1}{m-1} \binom{2x}{n-m} = \frac{(x+m-1)\cdots(x+1)}{(m-1)!} \cdot \frac{2x(2x-1)\cdots(2x-n+m+1)}{(n-m)!}$$

2項係数を含む有限和に関する命題 (2)

を適用すると、 $P(x)$ の次数は $n-1$ 次であるから、

$$a_m = (-1)^{n-m} (n-m) \sum_{k=0}^n (-1)^k P(k) \binom{n}{k} = 0, \quad (m = 1, 2, \dots, n-1)$$

となる。したがって、有理式 $Q(x)$ は

$$Q(x) = 1 + \frac{2n}{x-n} = \frac{x+n}{x-n}$$

と表される。この等式は、はじめの $Q(x)$ の定義において分母が0でない場合、すなわち、 $x \neq -n+1, \dots, n-1, n$ の場合に成立するものである。 (証明終)

【命題2の証明】

次のような有理式 $S(x)$ を考える。

$$S(x) = \sum_{k=1}^{n-1} \frac{\binom{x}{k} \binom{n}{k}}{\binom{x+n-1}{2k}}.$$

命題1を用いると、 $S(x)$ は次のような形で表すことができる。

$$\begin{aligned} S(x) &= Q(x) - 1 - \frac{\binom{x}{n} \binom{n}{n}}{\binom{x+n-1}{2n}} = \frac{2n}{x-n} - \frac{(2n)!}{n!} \cdot \frac{1}{(x+n-1) \cdots (x+1)} \cdot \frac{1}{x-n} \\ &= \frac{1}{x-n} \left(2n - \frac{(2n)!}{n!} \cdot \frac{1}{(x+n-1) \cdots (x+1)} \right). \end{aligned}$$

ここで、

$$f(x) = 2n - \frac{(2n)!}{n!} \cdot \frac{1}{(x+n-1) \cdots (x+1)}$$

とおくと、 $f(n) = 0$ であることから、

$$S(n) = \lim_{x \rightarrow n} \frac{f(x) - f(n)}{x - n} = f'(n).$$

一方、 $f(x)$ を微分したものは、

$$f'(x) = \frac{(2n)!}{n!} \cdot \frac{1}{(x+n-1) \cdots (x+1)} \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{x+k}$$

であるから、

$$S(n) = f'(n) = \frac{(2n)!}{n!} \cdot \frac{1}{(2n-1)\cdots(n+1)} \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{n+k} = \sum_{k=1}^{n-1} \frac{2n}{n+k}$$

を得る。 $S(n)$ は命題2の左辺にほかならない。

(証明終)

【応用例】

命題1, 2を用いて、次のような式の変形が行える。

整数 $n \geq 0$ に対して、記号 $(\zeta)_n$ を、 $(\zeta)_n = (\zeta+1)(\zeta+2)\cdots(\zeta+n-1)$ 、 $(\zeta)_0=1$ と定義する。

このとき、 $x > 0$ の領域で定義された、整数 $l \geq 2$ を含む函数¹⁾

$$F_l(x) = \frac{l!}{x^l} \left\{ e^x + x \sum_{n=0}^{l-2} \sum_{m=0}^{\infty} \frac{(l-n)_{n+1} (n+2)_n x^{m+n}}{(l+m-n-1)_{2n+2} m! n!} + \sum_{m=1}^{\infty} \frac{(l)_l x^{m+l}}{(m)_{2l} m!} - \sum_{m=0}^{l-1} \frac{lx^m}{(l-m)m!} \right\} - l \sum_{m=l+1}^{2l-1} \frac{1}{m}$$

は、次のように表される。

$$F_l(x) = 1 + \sum_{k=1}^{\infty} \frac{x^k}{k(l+1)_{k-1}} = 1 + x + \frac{x^2}{2(l+1)} + \frac{x^3}{3(l+1)(l+2)} + \cdots$$

【証明】

$F_l(x)$ は l 個の無限級数を含んでいる。まず、これらの収束を確かめる。級数の係数を $B_{m,n}$ とかく。

$$B_{m,n} = \frac{(l-n)_{n+1} (n+2)_n}{(l+m-n-1)_{2n+2} m! n!} \quad (n=0, 1, \dots, l-2, \quad m \geq 0)$$

この式で、 $n = l-1$ とすると、

$$B_{m,l-1} = \frac{(1)_l (l+1)_{l-1}}{(m)_{2l} m! (l-1)!} = \frac{(l)_l}{(m)_{2l} m!} \quad (m \geq 1)$$

これは残る一つの級数の係数と同一であるから、 l 個の級数を同じ形で書くことができる。

$$\sum_{n=0}^{l-2} \sum_{m=0}^{\infty} B_{m,n} x^{m+n+1} + \sum_{m=1}^{\infty} B_{m,l-1} x^{m+l} = \sum_{n=0}^{l-1} \sum_{m=0}^{\infty} B_{m,n} x^{m+n+1}$$

ただし、右辺の $B_{0,l-1}$ は、例外的に $B_{0,l-1}=0$ と決めておく。ダランベールの公式によって、 $\sum B_{m,n} x^m$ の収束半径 ρ を求めると、

2項係数を含む有限和に関する命題 (2)

$$\rho = \lim_{m \rightarrow \infty} \left| \frac{B_{m-1,n}}{B_{m,n}} \right| = \lim_{m \rightarrow \infty} \frac{(l+m-n-1)_{2n+2} m!}{(l+m-n-2)_{2n+2} (m-1)!} = \lim_{m \rightarrow \infty} \frac{(l+m+n)m}{l+m-n-2} = \infty.$$

よって、 $\sum \sum B_{m,n} x^{m+n+1}$ も $|x| < \infty$ で収束する。この収束は絶対収束であるから、和の順序をどのように変えても同一の値に収束する。

そこで、 $F_l(x)$ の式で、 e^x を冪級数に展開し、 x^k の斉次の項で整理すると、

$$\begin{aligned} F_l(x) &= \sum_{m=0}^{\infty} \frac{l!}{m!} x^{m-l} + l! \sum_{n=0}^{l-1} \sum_{m=0}^{\infty} B_{m,n} x^{m+n-l+1} - \sum_{m=0}^{l-1} \frac{l}{(l-m)} \frac{l!}{m!} x^{m-l} - \sum_{m=l+1}^{2l-1} \frac{l}{m} \\ &= \sum_{k=l-1}^{-1} \left\{ \frac{l!}{k(l+k-1)!} + \sum_{n=0}^{l+k-1} A_{k,n} \right\} x^k + \left\{ 1 - \sum_{m=l+1}^{2l-1} \frac{l}{m} + \sum_{n=0}^{l-2} A_{0,n} \right\} + \sum_{k=1}^{\infty} \left\{ \frac{l!}{(l+k)!} + \sum_{n=0}^{l-1} A_{k,n} \right\} x^k. \end{aligned}$$

ここで、 $\sum \sum B_{m,n} x^{m+n-l+1}$ の添字 m を $k=m+n-l+1$ に変更して、 $A_{k,n} = l! B_{m,n}$ とおいた。

$\zeta \geq 1$ のとき、 $(\zeta)_n = (\zeta+n-1)! / (\zeta-1)!$ であるから、 $A_{k,n}$ は、

$$\begin{aligned} A_{k,n} &= \frac{(l-n)_{n+1} (n+2)_n l!}{(2l-2n+k-2)_{2n+2} (l-n+k-1)! n!} \\ &= \frac{l! (2n+1)! (2l-2n+k-3)!}{(l-n-1)! (n+1)! (2l+k-1)! (l-n+k-1)! n!} = \frac{l!}{2(l+k)!} \frac{\binom{l}{n+1} \binom{l+k}{n+1}}{\binom{2l+k-1}{2n+2}} \end{aligned}$$

と表される。したがって、 x^k の係数はそれぞれ次のようになる。

$1-l \leq k \leq -1$ のとき、命題 1 によって、

$$\frac{l!}{k(l+k-1)!} + \sum_{n=0}^{l+k-1} A_{k,n} = \frac{l!}{k(l+k-1)!} + \frac{l!}{2(l+k)!} \left(\frac{l+(l+k)}{l-(l+k)} - 1 \right) = 0.$$

$k=0$ のとき、命題 2 によって、

$$1 - \sum_{m=l+1}^{2l-1} \frac{l}{m} + \sum_{n=0}^{l-2} A_{0,n} = 1 - \sum_{n=1}^{l-1} \frac{l}{l+n} + \frac{l!}{2l!} \sum_{n=1}^{l-1} \frac{2l}{l+n} = 1.$$

$k \geq 1$ のとき、命題 1 によって、

$$\frac{l!}{(l+k)!} + \sum_{n=0}^{l-1} A_{k,n} = \frac{l!}{(l+k)!} + \frac{l!}{2(l+k)!} \left(\frac{(l+k)+l}{(l+k)-l} - 1 \right) = \frac{l!}{k(l+k-1)!}.$$

となる。よって、

$$F_l(x) = 1 + \sum_{k=1}^{\infty} \frac{l!}{k(l+k-1)!} x^k = 1 + x + \frac{x^2}{2(l+1)} + \frac{x^3}{3(l+1)(l+2)} + \dots \quad (|x| < \infty)$$

(証明終)

【 $F_n(x)$ の性質】

以下に、 $F_n(x)$ の性質を列挙する。ここで、 $\gamma(n, x)$ は不完全ガンマ函数 $\gamma(n, x) = \int_0^x e^{-t} t^{n-1} dt$ を表す。($n > 0$)

$$\text{積分表示} \quad F_n(x) = 1 + \int_0^x n t^{-n} e^t \gamma(n, t) dt \quad (1)$$

$$F_n(x) = 1 + \int_0^1 \frac{e^{(1-s)x} - 1}{1-s} n s^{n-1} ds \quad (2)$$

$$\text{漸化式} \quad F_n(x) - 1 = x^{-n} e^x \gamma(n+1, x) + \frac{n}{n+1} (F_{n+1}(x) - 1) \quad (3)$$

$$\text{極 限} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} F_n(x) = 1 + x \quad (4)$$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} x^n e^{-x} (F_n(x) - 1) = \Gamma(n+1) \quad (5)$$

$$\text{級数展開} \quad F_n(x) = 1 + x + \frac{x^2}{2(n+1)} + \frac{x^3}{3(n+1)(n+2)} + \dots \quad (\text{定義}) \quad (|x| < \infty) \quad (6)$$

$$e^{-x} (F_n(x) - 1) = x - \left(1 + \frac{n}{n+1}\right) \frac{x^2}{2!} + \left(1 + \frac{n}{n+1} + \frac{n}{n+2}\right) \frac{x^3}{3!} - \dots \quad (|x| < \infty) \quad (7)$$

$$x^n e^{-x} (F_n(x) - 1) = \gamma(n+1, x) + \frac{nx^{-1}}{n+1} \gamma(n+2, x) + \frac{nx^{-2}}{n+2} \gamma(n+3, x) + \dots \quad (|x| < \infty) \quad (8)$$

$$\text{漸近展開} \quad x^n e^{-x} F_n(x) = \Gamma(n+1) + n\Gamma(n+1)x^{-1} + \dots + n\Gamma(n+k)x^{-k} + O(x^{-k-1}) \quad (x \rightarrow +\infty) \quad (9)$$

$$\log F_n(x) = x - n \log x + \log n! + nx^{-1} + O(x^{-2}) \quad (x \rightarrow +\infty) \quad (10)$$

2項係数を含む有限和に関する命題 (2)

【証明】

これらの関係は、不完全ガンマ函数の次のような性質に由来する。

$$(G1) \quad \gamma(n, x) = \int_0^x e^{-t} t^{n-1} dt \quad (\text{定義})$$

$$(G2) \quad \Gamma(n) = \lim_{x \rightarrow \infty} \gamma(n, x) \quad (\text{定義})$$

$$(G3) \quad \gamma(n+1, x) = n\gamma(n, x) - x^n e^{-x}$$

$$(G4) \quad e^x \gamma(n, x) = \frac{x^n}{n} + \frac{x^{n+1}}{n(n+1)} + \frac{x^{n+2}}{n(n+1)(n+2)} + \cdots \quad (|x| < \infty)$$

$$(G5) \quad \int_0^x n e^x \gamma(n, x) dx = e^x \gamma(n+1, x)$$

式(1)~(10)は、次のようにして導かれる。

【式(1)】 (G4)の級数に nx^{-n} を掛けて項別に積分することで得られる。

$$\begin{aligned} \int_0^x nx^{-n} e^x \gamma(n, x) dx &= \int_0^x nx^{-n} \left(\frac{x^n}{n} + \frac{x^{n+1}}{n(n+1)} + \frac{x^{n+2}}{n(n+1)(n+2)} + \cdots \right) dx \\ &= x + \frac{x^2}{2(n+1)} + \frac{x^3}{3(n+1)(n+2)} + \cdots \end{aligned}$$

【式(2)】 式(1)に(G1)を代入し、次のように積分することで得られる。

$$\begin{aligned} F_n(x) - 1 &= \int_0^x nt^{-n} e^t \gamma(n, t) dt = \int_0^x nt^{-n} e^t \int_0^t u^{n-1} e^{-u} du dt = \int_0^x nt^{-n} e^t \int_0^t (st)^{n-1} e^{-st} t ds dt \\ &= \int_0^1 ns^{n-1} \int_0^x e^{(1-s)t} dt ds = \int_0^1 ns^{n-1} \frac{e^{(1-s)x} - 1}{1-s} ds. \end{aligned}$$

【式(3)】 (G5)の関係を使って、式(1)に部分積分を行うことで得られる。

$$\begin{aligned} F_n(x) - 1 &= \int_0^x nt^{-n} e^t \gamma(n, t) dt = x^{-n} e^x \gamma(n+1, x) + \int_0^x nt^{-n-1} e^x \gamma(n+1, t) dt \\ &= x^{-n} e^x \gamma(n+1, x) + \frac{n}{n+1} (F_{n+1}(x) - 1). \end{aligned}$$

【式(4)】 任意の $\varepsilon > 0$ に対して、 $n \geq |x| (1 + |x| / \varepsilon)$ なる全ての n について、

$$|F_n(x) - 1 - x| \leq \sum_{k=2}^{\infty} \frac{|x|^k}{k(n+1) \cdots (n+k-1)} \leq \frac{|x|^2}{n} \sum_{k=0}^{\infty} \left| \frac{x}{n} \right|^k = \frac{|x|^2}{n-|x|} \leq \varepsilon$$

である。よって、 $\lim_{n \rightarrow \infty} F_n(x) = 1 + x$ 。

【式(5)】 $x > 0$ とする。式(3)を用いて $F_n(x)$ の上限を評価すると、

$$\begin{aligned} F_n(x) - 1 - x^{-n} e^x \gamma(n+1, x) &= \frac{n}{n+1} (F_{n+1}(x) - 1) \\ &= \frac{n}{n+1} \left(x^{-n-1} e^x \gamma(n+2, x) + (n+1) \int_0^x x^{-n-2} e^x \gamma(n+2, x) dx \right) \\ &\leq \frac{n}{n+1} \left(x^{-n-1} e^x \gamma(n+2, x) + (n+1)x \cdot x^{-n-2} e^x \gamma(n+2, x) \right) = \frac{n(n+2)}{n+1} x^{-n-1} e^x \gamma(n+2, x) \end{aligned}$$

である。一方、 $F_n(x) - 1 - x^{-n} e^x \gamma(n+1, x) \geq 0$ であるから、この2つの不等式を合わせて、

$$0 \leq x^n e^{-x} (F_n(x) - 1) - \gamma(n+1, x) \leq \frac{n(n+2)}{n+1} x^{-1} \gamma(n+2, x)$$

を得る。この式の右辺は $x \rightarrow +\infty$ の極限で 0 に収束するから、

$$\lim_{x \rightarrow \infty} x^n e^{-x} (F_n(x) - 1) = \lim_{x \rightarrow \infty} \gamma(n+1, x) = \Gamma(n+1)。$$

【式(7)】 式(2)を冪級数に展開し、区間 $(0, 1)$ で一様収束することに注意して項別積分すると、

$$\begin{aligned} e^{-x} (F_n(x) - 1) &= \int_0^1 \frac{e^{-sx} - e^{-x}}{1-s} n s^{n-1} ds = \int_0^1 \sum_{k=1}^{\infty} \frac{(-sx)^k - (-x)^k}{(1-s)k!} n s^{n-1} ds \\ &= \sum_{k=1}^{\infty} \frac{(-1)^{k-1} n x^k}{k!} \int_0^1 \frac{(1-s^k) s^{n-1}}{1-s} ds = \sum_{k=1}^{\infty} \frac{(-1)^{k-1} n x^k}{k!} \int_0^1 \sum_{m=0}^{k-1} s^{m+n-1} ds = \sum_{k=1}^{\infty} \sum_{m=0}^{k-1} \frac{(-1)^{k-1} n x^k}{k!(m+n)}. \end{aligned}$$

2項係数を含む有限和に関する命題(2)

【式(8)】 式(3)を繰り返し用いて、

$$x^n e^{-x} (F_n(x) - 1) = \gamma(n+1, x) + \frac{n}{n+1} x^{-1} \gamma(n+2, x) + \cdots + \frac{n}{n+k} x^{-k} \gamma(n+k+1, x) \\ + \frac{n}{n+k+1} x^n e^{-x} (F_{n+k+1}(x) - 1).$$

この式で、 x を固定し、 $k \rightarrow \infty$ の極限をとると、式(4)によって最後の項は0に収束して、式(8)の形の級数を得る。

【式(9), (10)】 上の式で、 k を固定し、 $x \rightarrow +\infty$ としたときの極限で

$$\sum_{m=0}^k \frac{n}{n+m} x^{-m} (\gamma(n+m+1, x) - \Gamma(n+m+1)) + \frac{n}{n+k+1} x^n e^{-x} (F_{n+k+1}(x) - 1) = O(x^{-k-1})$$

なることを確かめる。実際、ド・ロピタルの定理を用いて Σ の中の項を x^{-k-1} と比較すると、

$$\lim_{x \rightarrow \infty} x^{k+1} x^{-m} (\gamma(n+m+1, x) - \Gamma(n+m+1)) = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^{n+m} e^{-x}}{(m-k-1)x^{m-k-2}} = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^{n+k+2} e^{-x}}{m-k-1} = 0,$$

すなわち、 x^{-k-1} に比べて高位の無限小であり、また、最後の項は、式(5)から、

$$x^n e^{-x} (F_{n+k+1}(x) - 1) = O(x^{-k-1})$$

となる。よって、式(9)が成り立つ。さらに、式(9)の両辺の対数をとると、式(10)を得る。

(証明終)

参考文献：

- 1) 伊原千秋・五十嵐頭人、「低炭素鋼の高サイクル疲労におけるき裂発生モデル」、材料、29(320), 1980, pp. 434-438. なお、付録1(438ページ)に記載の $F_l(x)$ の表式には誤記があり、最後の項の符号は+ではなく、-が正しい。
- 2) C. Ihara and T. Tanaka, "A stochastic damage accumulation model for crack initiation in high-cycle fatigue", *Fatigue Fract Engng Mater Struct* 23, 2000, pp. 375-380.
- 3) 田中武之、「2項係数を含む有限和に関する命題(1)」、福井県立大学論集、28, 2006, pp. 123-129.